



19長土第 73 号
平成19年5月 7日

国土交通省道路局長 様

長久手町長 加藤梅雄



中期的な計画の作成にあたっての意見について (回答)

平成19年4月2日付け国道企第114号で依頼がありましたこのことについて
は別添のとおりです。

今後の道路政策や道路整備・管理について

・ 重点化を進める上で特に優先度の高い施策

政策＝本町では南北方向の幹線道路が未整備であり大型車輛が生活道路に入り込み環境悪化が広がっている。災害時における緊急輸送路確保の観点からも幹線道路は確保すべきと考える。

市町村の合併を議論する上でも名古屋市との交通便利に比べると瀬戸市、日進市など、南北の連絡が確保されていないことで、これらの地域との一体感が出てこない。名古屋市周辺市町がそれぞれの個性を活かして発展していくには道路整備など交通便利の向上は大きな課題といえる。

整備＝南北の路線としては県道瀬戸・大府東海線の整備促進、県道春日井・長久手線の整備の具体化が課題となる

管理＝本町でも、幹線・準幹線道路においては年々交通量の増加に伴い、路面の痛みが著しい。舗装路面材の品質的な強度・耐久性の向上や、延命技術などに関しての飛躍的な向上を期待したい。

・ 効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

政策＝道路整備は整備開始から供用開始までを短縮する事が最も重要と考える。整備路線の絞込みと優先的資金投入により完成させる事により事業効果を出していくことが最も効率が高い。

整備＝供用予定の用途を公表して整備することで、集中的に整備できる。

管理＝地域の状況により管理水準の求めるグレードは差がある。整備段階でも植樹帯の整備内容は地域自治体と相談して決定されたい。

長久手町では景観法に基づく「景観行政団体」として、主要な道路では景観上重要な施設として位置付けている。

・ その他、道路政策や道路の整備・管理全般に関するご意見

政策＝電線類地中化については「美しい国土づくり」においても話題となっている。平成 17 年中部開発センターが日本に住む外国人に対するアンケートでも、日本の景観で外国人に不評であったのが電線・電柱が 1 位けばけばしい看板が 3 位など、道路に関する課題が多い。長久手町では今後「美しいまちづくり」が町の主要施策と考えており電線類地中化など積極的に取り組みたいと考えている。

整備＝長久手町においては国際博覧会に合わせて県道力石名古屋線で電線類地中化が実施されたが、この施策は進められたい。

管理＝街路樹管理は町道と県道は差がありすぎる。県道管理者は、管理すべき樹木を設置した以上適切な管理を継続して実施すべきである。